

試料・情報利用研究計画書(概要)				
審査委員会 受付番号	2022-1016-1	利用形態	共同研究	
研究題目	精神神経疾患の原因解明および診断法・治療法の開発に関する研究		研究期間	2023年2月～2027年3月
代表研究機関	順天堂大学医学部	責任者 氏名・職	加藤 忠史	教授
分担研究機関	東北メディカル・メガバンク機構	責任者 氏名・職	田宮 元	教授
研究目的と意義	双極性障害はうつ状態と躁状態を繰り返す気分障害の一種です。双極性障害の患者数は比較的多いものの、未だ病気の原因が解明されておらず、治療法も十分でないことから、大きな社会的負担となっています。これまでの研究により双極性障害の発症には、遺伝子が大きく寄与することが知られており、遺伝子をコードするゲノムDNAの情報を分析することが、病気の原因の理解と治療法の開発に重要と考えられています。 本研究は、双極性障害に対して大きく寄与する新規の遺伝子や変異を探索します。そうして同定した情報から発症リスクを予測するスコアを計算する手法を開発し、その臨床意義を検討します。			
研究計画概要	本研究は順天堂大学と共同で行います。順天堂大学で収集した双極性障害の患者さん由来のDNAを、東北メディカル・メガバンク機構のゲノム解析装置で分析します。また、東北メディカル・メガバンク事業のコホート調査に参加された方の解析済みゲノムデータと比較することで、双極性障害の患者さんに多く見られる変異を同定します。これらの解析で同定した複数の変異の組み合わせを元に発症リスクのスコアを計算します。			
利用試料・情報	対象: 全ゲノム情報が得られているコホート調査参加者 約8,000人 試料: なし 情報: 基本情報、調査票情報、検体検査情報、生理機能検査情報、全ゲノム情報			
期待される成果	基礎科学的には他の精神疾患との遺伝的構成の比較によりヒトの精神活動の科学的理解に貢献することが期待されます。これらの新規バリエーション探索・病態推定のアプローチは、他疾患にも応用可能であり、医科学研究への波及効果が期待できます。			
倫理審査等の経過	2024年12月 東北メディカル・メガバンク機構倫理委員会承認			
倫理面、セキュリ ティー面の配慮	生命科学・医学系研究の倫理指針のほか別に締結する研究契約を遵守して研究を実施します。 試料・情報は、高度なセキュリティが担保されたスーパーコンピュータ内に限って利用し、共同研究先には統計情報のみが共有され、研究に活用されます。 双極性障害患者由来の試料・情報は、順天堂大学で別研究計画において、対象者から適切な同意を得て取得されています。			
その他特記事項	AMED受託研究費(ゲノム医療実現推進プラットフォーム事業)			
	*公開日 2025年2月4日			